

第34回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

○日時：平成31年4月1日(月)14:00～15:00

○場所：中央合同庁舎 8号館 10階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ：テック系ベンチャーが目指す「エアーモビリティ社会」実現への挑戦と課題

○招へい者：株式会社 A.L.I.Technologies 代表取締役会長 小松 周平

株式会社 A.L.I.Technologies 代表取締役社長 片野 大輔

○出席者：平井国務大臣、三輪 CIO(政府)、神成副 CIO(政府)、幸田内閣府審議官、住田知財事務局長、黒田審議官(科技)、行松審議官(宇宙)、八山参事官(IT)、池田企画官(科技)、柴崎参事官(IT)、石井企画官(科技)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 株式会社 A.L.I.Technologies からの説明

- テックベンチャーとして次世代を支えるインフラ企業になることが我々のビジョンであり、エアーモビリティという新しいグローバル概念を形成するためにドローン、ブロックチェーン、AI などの技術要素、そして次世代のインフラを支えるようなシェアリング事業をやっている。
- 世界に向けて日本の技術力をアピールしていき、世界が抱える社会問題に関して貢献したいと考えている。この社会課題を解決するために2つのモデルを用意している。スタンダードモデルは、海上、砂漠のようなところを走る目的で作られている。スポーツモデルは、富裕層向けにレースであったり、エンターテインメントであったり、そういったところに活用できると考えられる。
- 先進国において、我々が考えるのはグローバルで抱えるインフラの老朽化。このモビリティはこの問題を解決する活用用途がある。浮いているのでタイヤのブレーキなどで道路の磨耗を防ぐことによって、先進国において課題解決の糸口となると思う。
- テック系ベンチャーとして政府、研究者、専門家、研究機関、大企業とベンチャーエコシステムを構築していくためには、まず基礎研究を大学、研究機関と一緒にやっている。基礎研究の応用結果にフィードバックをして、社会実装した時にどんなデータが手に入るか、フィードバックをすることによってより研究機関、大学の基礎研究の質を上げていくことに貢献できている。
- 大企業は新しい技術を取り入れることで既存の資産の有効活用ができ、また知財、法務、会計など、エアーモビリティという新しい技術の法解釈、技術の検討を進めていかないとなかなか社会実装できないと考える。

3. 質疑応答・議論

以下の意見・提言があった。

- 新たな免許制度の整備について、中型バイクの免許で運転できるように関係各所と協議している。新しい基準を作ろうとしているのかという質問に対して、中型バイクの基準の枠の中で収まるように作っている。一方で普通のバイクと違い、少し浮いているので、この概念をどうしていくのか。浮いているということで新たな解釈が必要になってくると考える。
- 車体が浮くことをどう解釈していくかという意見があり、その場合人間が積載物扱いになる可能性があるとか、バイクの高さ制限が2メートルをどう解釈していくか、またブレーキの解釈と車体を浮かせるための風の影響も出てくる。
- AI や画像解析など他のベンチャーと競合しているが、何かオリジナリティはあるのかという質問に対して、解析やディープラーニングのアルゴリズムは独自に開発しているとの意見があった。
- エアーモビリティを社会実装した時にどうなるだろうと考えた時にまず既存の枠組み内で作ることがスタートで最終的には消費者の支持を受けることで進化していき、社会に定着していくと思う。エアーモビリティはコネクテッドインダストリーと MaaS の概念を重ね備えたモビリティになると思う。
- 世界に向けた日本の活力向上、地方創生、超高齢化社会での雇用の創出などロボット、ドローンを使った身体的な能力の拡張することでジャパンプレゼンスの向上に貢献できると考える。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)